

# 城郭だより

日本城郭史学会会報

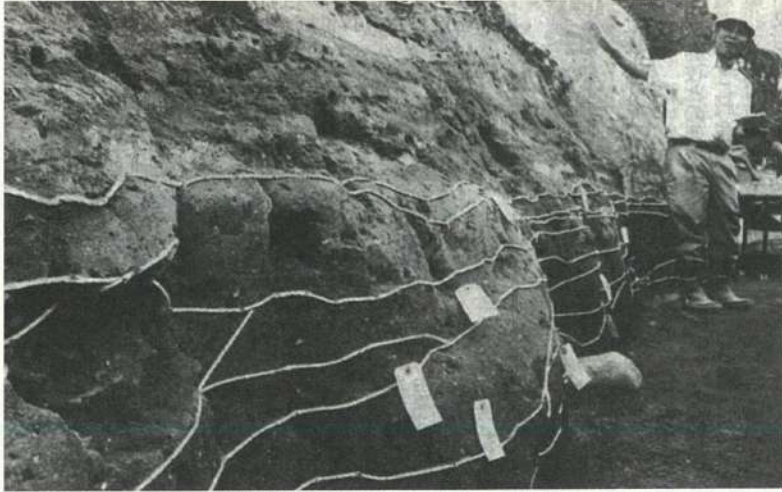
〒品川五 東京都板橋区板橋北野郵便局私書箱第50号  
TEL 〇三三九六七 一四〇八  
発行者 西ヶ谷恭弘

第127号 令和6年10月

## 弘前城 天守台下に盛土遺構

弘前城本丸東面の石垣修理事業に伴い、発掘調査が行われている。この調査で天守台の下約四メートルの地点から盛土遺構が見つかった。この盛土遺構は今から約四千

年から二千三百年前、縄文時代後期から晩期のもつと見られる。二〇二二年度と今年度の調査のそれぞれでマウンド状に盛り上がった「高まり」が確認され



今年度調査で発見された弘前城の盛土遺構

た。この高まりは壊れた土器や石器、竪穴式住居などを掘った際に出る土砂などが長期間にわたって同じ場所に捨てられたことにより形成されたものと思われる。縄文時代晩期中葉から後葉と見られる深鉢、石鏃などの出土品の形式や土質がおおむね一致したため、この二地点の高まりは同時期に形成されたものと考えられるという。弘前大学

人文社会科学部の関根達人教授は「高まりは多分環状になっており、その端と端が出てきた。直径は四五メートルくらい。いずれせよ大規模な盛土遺構があり、この遺跡はかなり長期間にわたって営まれていた」と推察する。

弘前市周辺には縄文時代晩期の遺跡が十か所あるが、そのうち盛土遺構が確認されているのは、岩木山麓や白神山遺跡のみで、弘前市街地での盛土遺構の発見は初めてであるという。関係者は縄文時代晩期に弘前城周辺で拠点の集落が営まれていたことを示す貴重な成果としている。関根教授は「弘前城が造られた場所は縄文時代から岩木川の河岸段丘を望むすぐく良い場所であり、今から二千五百年前の縄文の拠点集落もあった」とし「石垣が修復されたときに自分の足元には縄文遺跡があると想像してもらいたい」と語った。

弘前城本丸東面の石垣積み直し工事は二〇二一年六月にスタートした。工事は天守が載る南側部分の石垣を残すのみで、今年度で完了する予定である。できるだけ遺構を壊さず残したいと関根教授は話しているが、盛土遺構の上に石垣を積み直す必要があるため、再び盛土遺構が姿を現すのは、次の石垣修理の時になるという。

(陸奥新聞 二〇二四年七月二六日記事より)

### 日本城郭史学会 催物・見学会・セミナー案内

十一月見学会

#### 下野中南部の城を訪ねる

宇都宮氏と壬生氏の領国の境目の城として築かれた城を貸切バスで巡ります。

月 日 11月30日(土) 午前10時30分(解散は午後5時予定)

集 合 JR宇都宮線石橋駅西口

参加費 会員四五〇〇円、会員外五〇〇〇円(貸切小型バス代含む)

案内講師 笹崎 明氏(史学会委員)

コース 石橋駅―うつのみや遺跡の広場(犬飼城まで徒歩)―千

渡城―壬生城本丸裏門―栃木市西方公民館―羽生田城―

壬生城址公園(復興二の丸門)―石橋駅解散

\*昼食は必ずご持参ください

十二月セミナー

#### 「小机城を明らかに」

―令和3・4年度の発掘調査成果―

小机城は、統一〇〇名城にその名を連ねながら、今まで本格的な発掘調査がなされてきませんでした。小机城跡の実態に迫るため令和3・4年度に実施した発掘調査の成果についてご紹介します。

月 日 12月14日(土) 午後3時〜5時

会場 板橋区グリーンカレッジホール三階教室2(板橋区志村)

発表 近藤 匡樹氏(横浜市教育委員会事務局生涯学習文化財課)

文化財係 埋蔵文化財専門職員)

参加費 会員一〇〇〇円、会員外一五〇〇円

終了後懇親会(忘年会)があります。参加費約六〇〇円

令和7年 一月見学会

#### 膳城と山上城

膳城、山上城共に遺構が良好に残る戦国時代の丘城です。膳城は別城一郭の構造を持ち、曲輪、空堀、櫓台などが見られ、山上城も曲輪、堀切、横堀、土塁、櫓台など見所いっぱい城です。両城ともに、発掘調査で三日月堀が確認され、馬出しがあった城です。

月 日 1月25日(土) 午前11時50分(解散は17時予定)

集 合 JR両毛線桐生駅改札口

参加費 会員一〇〇〇円、会員外一五〇〇円(別途に交通費)

案内講師 阿部 和彦氏(史学会委員)

コース 桐生駅(徒歩にて)西桐生駅―膳城―前橋市柏川歴

史民俗資料館―山上城―徒歩にて新里駅―西桐生駅―解散

申込み 11・12・1月共に当事務局へメールが電話にて